

東アジア言語文化講演会

漢字の成り立ちに見る人生の知恵



講演者:阿辻哲次氏

京都大学名誉教授

(公財) 日本漢字能力検定協会

漢字文化研究所所長

1951年 大阪府生まれ。

1980年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。

京都大学大学院人間・環境学研究科教授を 2017年 3月 末を以て定年退職。

お茶の間でもおなじみの漢字博士。専門は中国文化史、中国文字学。人間が何を使って、どのような素材の上に、どのような内容の文章を書いてきたか、その歩みを中国と日本を舞台に考察する。第22期国語審議会委員として「表外漢字字体表」の作成に、また文化審議会国語分科会漢字小委員会委員として、常用漢字表の改定に携わる。著書は「戦後日本漢字史」(新潮選書)「漢字道楽」(講談社学術文庫)「漢字のはなし」(岩波ジュニア新書)など多数。

講演概要

漢字はそれぞれの文字に意味がある表意文字であり、そのことを逆に考えると、それぞれの漢字はある特定の意味を表すために作られた、ということになります。そんな漢字の成り立ちを調べていると、現代の日本からは想像もつかない考え方に出くわすことがしばしばあって、そこに古代人の大らかで自由な世界観や人生観をかいま見ることができます。古代の中国人たちは、どのような発想で漢字を作ったのか、そのカプセルをあけて、古代人が認識した世界に迫ってみようと思います



2017年8月2日(水)15:00~17:00 聴講自由

於富山大学人文学部 1階 大会議室

問い合わせ先: 富山大学人文学部東アジア言語文化講座 (moriga@hmt.u-toyama.ac.jp)